

第8章 資本利益率分析

本日のテーマ

- ①資本の意義（様々な資本概念）
- ②利益の意義（様々な利益概念）
- ③相性の良い「資本利益率」を探そう！
- ④マトメでは、練習問題を実施します！

①資本の意義

調達資本で 運用	他人から調達
建設仮勘定 (貢献しない)	
投資その他の資産 (事業活動でない)	
繰延資産 (換金価値なし)	自分で調達 自分で稼ぐ

総資産

総資本

経営資本＝総資産－（建設仮勘定＋投資その他の資産＋繰延資産＋遊休資産）
（ケントク）繰延税金資産も引こう

※指示あれば指示に従う

②利益の意義

損益計算書

I 売上高	…説明は不要ですね
II 売上原価	
<売上総利益>	…取扱商品の収益力を示す。粗利益とも呼ばれる
III 販売費及び一般管理費	…給料や減価償却費などです
<営業利益>	…営業活動の成果である本業の収益力を示す
IV 営業外収益	…受取利息等
V 営業外費用	…支払利息等
<経常利益>	…利息等の財務損益もあわせた、日常的経営活動の成果を示す
VI 特別利益	…固定資産売却益など
VII 特別損失	…固定資産売却損など
<税引前当期純利益>	…法人税等の計算の元になる利益を示す
法人税、住民税および事業税	
<当期純利益>	…配当原資の最終利益を示す

★経営分析における利益概念

経常利益（100）＝営業利益（120）＋受取利息（10）－支払利息（30）

事業利益＝経常利益（100）＋支払利息（30）＝営業利益（120）＋受取利息（10）

※資本構成の影響受けないので、理論的には経常利益よりも事業利益が良いとされる

③相性の良い資本利益率（ROI）とは

(1)総資本当期純利益率（企業の全体活動に対する収益性）

- ・ 経営管理的側面→税引前当期純利益（税金は企業はコントロールできないので、前が理論的には良いとされる）
- ・ 処分可能性的側面→税引後当期純利益（三菱総研）

(2)経営資本利益率（中核事業に対する収益性）

- ・ 経営資本営業利益率（中小企業の財務指標の中核指標）
- ・ 経営資本事業利益率

※遊休資産の把握は外部分析としては難しいので総資本事業利益率が使われることも多い

(3)自己資本当期純利益率（ROE）・・試験では指示なければ自己資本＝純資産

- ・ 会社四季報などで採用

<デュポン式>

$$\text{自己資本利益率} = \frac{\text{利益}}{\text{自己資本}} = \frac{\text{利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{自己資本}}$$

$$\frac{\text{利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資本}} \times \frac{\text{総資本}}{\text{自己資本}}$$

利益率 回転率 財務レバレッジ（自己資本比率の逆数）

練習問題 8.5 で確認しよう

マトメ

- 8.1 P L からみた売上高利益率に加えて資本対利益率で収益性をはかることも重要。
ただし、平均値をとった場合においても一過性の B S の数値とフロー計算の P L 項目での分析には限界がある
- 8.2 テキスト通り
- 8.3 総資本利益率の意義→企業が投下したすべての資本が稼いだ利益の算定が可能
- 8.4 経営資本利益率の意義→実際に稼働している資本が稼いだ利益の算定が可能
- 8.5 以降は画面で説明します